

令和6年(2024年)5月10日
5月定例教育委員会
報告事項

令和6年度滋賀県立高等学校入学者選抜 結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋賀県教育委員会

令和6年度滋賀県立高等学校入学者選抜 結果のまとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	・・・ 1
	(1) 推薦選抜、特色選抜の結果	・・・ 1
	(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	・・・ 2
	(3) 一般選抜の結果	・・・ 2
	(4) 入学者選抜の結果	・・・ 3
2	学科別の受検者数、入学許可予定者数等について	・・・ 4
3	一般選抜における出願変更者数について	・・・ 5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	・・・ 5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	・・・ 6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	・・・ 7
2	配点等	・・・ 7
3	検査成績	・・・ 7
4	その他	・・・ 7
	【各教科の分析】	
	国 語	・・・ 8
	数 学	・・・ 10
	社 会	・・・ 12
	理 科	・・・ 14
	英 語	・・・ 16

I 全日時の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について ※中高一貫教育に係る人数は除く

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

推薦選抜実施校は、全日制課程の32校（普通科15、専門学科11、総合学科7 のべ33校）、定時制課程の1校（普通科1）であった。特色選抜実施校は、15校（普通科14、専門学科4 のべ18校）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月7日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中97校（昨年度106校中96校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は10校（昨年度9校）であった。全日制の出願者数は、普通科で722人（昨年度781人）、農業学科で184人（昨年度192人）、工業学科で320人（昨年度325人）、商業学科で327人（昨年度331人）、家庭学科で91人（昨年度82人）、体育学科で49人（昨年度45人）、美術学科で42人（昨年度28人）、総合学科で415人（昨年度414人）であった。定時制は普通科の12人（昨年度13人）となった。この結果、出願者数合計は、2,162人（昨年度2,211人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では0.93倍（昨年度1.01倍）、専門学科で1.11倍（昨年度1.09倍）、総合学科では0.85倍（昨年度0.85倍）、定時制の普通科は1.00倍（昨年度1.08倍）となり、実施学科全体では0.99倍（昨年度1.01倍）であった。この結果、1,885人が入学許可予定者となり、合格率は87.3%（昨年度89.8%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中100校（昨年度106校中102校）、県外の中学校は12校（昨年度21校）であった。出願者数は、普通科で3,520人（昨年度3,656人）、理数学科で93人（昨年度82人）、音楽学科で30人（昨年度19人）、文理探究学科で22人（昨年度28人）であった。この結果、出願者数合計は3,665人（昨年度3,785人）となり、出願倍率は、普通科では3.30倍（昨年度3.42倍）、専門学科では1.61倍（昨年度1.43倍）となり、実施学科全体では3.16倍（昨年度3.27倍）であった。この結果、1,158人が入学許可予定者となり、合格率は31.8%（昨年度30.4%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,043人が入学許可予定者となり、合格率は52.4%（昨年度52.3%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数 C	合格率 C/B' (%)	
			割合 (%)	人数 A'						
推薦選抜	普通科	2,640	20~30	776	722	720	0.93	680	94.0	
	普通科(定)	40	30	12	12	12	1.00	12	100	
	専門学科	農業	400	50	200	184	184	0.92	168	91.3
		工業	720	50	360	320	320	0.89	292	91.3
		商業	520	50	260	327	327	1.26	258	78.9
		家庭	80	40	32	91	91	2.84	32	35.2
		体育	40	85	34	49	49	1.44	34	69.4
		美術	40	75	30	42	42	1.40	30	71.4
		小計	1,800		916	1,013	1,013	1.11	814	80.4
	総合学科	1,240	30~40※	489	415	414	0.85	379	91.5	
合計	5,720		2,193	2,162	2,159	0.99	1,885	87.3		
特色選抜	普通科	3,560	30	1,068	3,520	3,501	3.30	1,068	30.5	
	専門学科	理数	80	50	40	93	93	2.33	40	43.0
		音楽	40	75	30	30	30	1.00	30	100
		文理	40	50	20	22	22	1.10	20	90.9
		小計	160		90	145	145	1.61	90	62.0
合計	3,720		1,158	3,665	3,646	3.16	1,158	31.8		
総合計	9,440		3,351	5,827	5,805	1.74	3,043	52.4		

※信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）。

※上記には、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜の追検査受検者（13人）を含む。

(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

スポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の19校（普通科11、専門学科6、総合学科3）のべ20校）であった。このうち、推薦選抜実施校は16校（普通科7、専門学科6、総合学科3）、特色選抜実施校は、全日制課程の4校（普通科4）であった。

受検者数123人に対して、入学許可予定者数は112人となり、受検者数に対する合格率は、91.1%（昨年度97.2%）となった。

(3) 一般選抜の結果

一般選抜は、学力検査定員6,637人に対し、確定出願者数は6,870人であり、確定出願倍率は1.04倍であった。また、受検者数は6,855人であり、受検倍率は1.03倍であった。この結果、6,107人が入学許可予定者となり、合格率は89.1%であった。

二次選抜は、二次選抜定員530人に対し、受検者数は129人であった。この結果、123人が入学許可予定者となり、合格率は95.3%であった。（表2参照）

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目	年度	令和6年度	令和5年度
	学力検査	学力検査定員 A	6,637
出願者数		6,896	6,888
確定出願者数 (倍率)		6,870 (1.04)	6,843 (1.04)
受検者数 B (倍率)		6,855 (1.03)	6,828 (1.04)
不合格者数 B - C		748	788
入学許可予定者数 C		6,107	6,040
合格率 C/B (%)		89.1	88.5
二次選抜	二次選抜定員	530	515
	出願者数	129	98
	受検者数 D (倍率)	129 (0.24)	97 (0.19)
	不合格者数 D - E	6	3
	入学許可予定者数 E	123	94
	合格率 E/D (%)	95.3	96.9
入学許可予定者数合計 C + E		6,230	6,134

※上記には、学力検査の追検査受検者（30人）を含む。

(4) 入学者選抜の結果

県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は9,273人であった。全日制では募集定員9,400人に対して入学許可予定者数9,113人、定時制は募集定員280人に対して入学許可予定者数160人となった。

入学許可予定者数の内訳は、推薦選抜1,885人、特色選抜1,158人、スポーツ・文化芸術推薦選抜112人、一般選抜6,107人で、二次選抜123人であった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は9,262人で、募集定員の95.7%（昨年度95.7%）となった。（表3参照）

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	令和6年度			令和5年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				13,968	13,901
募集定員 A		9,400	280	9,680	9,680
推薦選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,873	12	1,885	1,986
特色選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,158	-	1,158	1,147
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		112	-	112	139
一般選抜入学許可予定者数		5,967	140	6,107	6,040
二次選抜入学許可予定者数		115	8	123	94
総計	入学許可予定者総数	9,113	160	9,273	9,267
	実入学者数 B	9,106	156	9,262	9,266
	定員充足率 B/A(%)	96.9	55.7	95.7	95.7

※県内中学校卒業予定者数は、令和6年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、工業学科、音楽学科、文理探究学科、総合学科の5学科（昨年度6学科）であった。（表4および別表参照）

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	文理	総合	
募集定員 A		9,680	6,360	400	800	520	80	80	40	40	40	40	1,280	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,193	788	200	360	260	32	-	34	-	30	-	489	
	受検者数 B	2,159	732	184	320	327	91	-	49	-	42	-	414	
	入学許可予定者数 C	1,885	692	168	292	258	32	-	34	-	30	-	379	
	合格率 C/B(%)	87.3	94.5	91.3	91.3	78.9	35.2	-	69.4	-	71.4	-	91.5	
特色選抜	募集枠（人数）	1,158	1,068	-	-	-	-	40	-	30	-	20	-	
	受検者数 D	3,646	3,501	-	-	-	-	93	-	30	-	22	-	
	入学許可予定者数 E	1,158	1,068	-	-	-	-	40	-	30	-	20	-	
	合格率 E/D(%)	31.8	30.5	-	-	-	-	43.0	-	100	-	90.9	-	
一般選抜	学力検査	学力検査定員	6,637	4,600	232	508	262	48	40	6	10	10	20	901
		確定出願者数	6,870	*3,920	259	468	276	68	**	**	0	**	**	822
		受検者数 F	6,855	*3,909	259	468	276	68	**	**	-	**	**	820
		入学許可予定者数 G	6,107	4,278	232	451	262	48	40	6	-	10	9	771
		合格率 G/F(%)	89.1	***	89.6	96.4	95.0	70.6	***	***	-	***	***	94.0
	二次選抜	二次選抜定員	530	322	-	57	-	-	-	-	10	-	11	130
		出願者数	129	*111	-	8	-	-	-	-	0	-	**	10
		受検者数 H	129	*111	-	8	-	-	-	-	-	-	**	10
		入学許可予定者数 I	123	105	-	8	-	-	-	-	-	-	-	10
		合格率 I/H(%)	95.3	***	-	100	-	-	-	-	-	-	***	100
総計	入学許可予定者数	9,273	6,143	400	751	520	80	80	40	30	40	29	1,160	
	実入学者数 J	9,262	6,140	400	749	520	80	80	40	29	40	29	1,155	
	過不足 J-A	-418	-220	0	-51	0	0	0	0	-11	0	-11	-125	
	定員充足率(%)	95.7	96.5	100	93.6	100	100	100	100	73.0	100	72.5	90.3	
前年度定員充足率(%)		95.7	96.0	100	93.8	100	100	100	100	52.5	80.0	82.5	94.1	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

※上記には、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、学力検査それぞれの追検査受検者を含む。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	文理探究
一般選抜	学力検査	学力検査定員	364	40	224	6	125	10	128	20
		確定出願者数	478		338		115		126	
		受検者数	477		338		114		126	
		入学許可予定者数	332	40	224	6	103	10	117	9
	二次選抜	定員	32	-	-		22	-	11	11
		出願者数	24	-	-		15	-	0	
		受検者数	24	-	-		15	-	-	
		入学許可予定者数	24	-	-		15	-	-	-

3 一般選抜における出願変更者数について

出願者数6,896人に対し、出願変更者数は380人（昨年度395人）で、出願変更率は5.5%（昨年度5.7%）となり、確定出願者数は6,870人であった。

各学科別の出願変更率は、音楽学科の100%が最も高く（昨年度の最高は音楽学科の100%）、次に、家庭科学科の14.1%であった。（表5参照）

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願者数 A	出願 変更者数 B	出願 変更率 B/A(%)	確定 出願者数 C	出願 変更者数	出願 変更率 (%)	
学科	* 普通	3,759	3,892	188	4.8	3,920	242	6.0	
	農業	232	278	33	11.9	259	17	7.2	
	工業	508	461	13	2.8	468	37	8.1	
	商業	262	279	22	7.9	276	14	5.1	
	家庭	48	78	11	14.1	68	6	9.1	
	音楽	10	4	4	100	0	2	100	
	総合	901	833	38	4.6	822	28	3.4	
	学校 出願	普通・理数	404	466	22	4.7	478	30	5.5
		普通・体育	230	377	46	12.2	338	14	5.6
		普通・美術	135	102	2	2.0	115	2	2.2
普通・文理		148	126	1	0.8	126	3	2.2	
合計		6,637	6,896	380	5.5	6,870	395	5.7	

*普通科は学校出願を除く

4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、愛知高等学校の1校1科であった。実技検査を実施した学校は、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の2校2科であった。

なお、作文の実施校はなかった。

Ⅱ 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し15人（昨年度18人）が入学許可予定者となり、0.38倍（昨年度0.45倍）の倍率となった。二次選抜では、1人（昨年度3人）が入学許可予定者となり、合計16人（昨年度21人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ、一次選抜では181人の出願者（昨年度178人）に対して、181人（昨年度178人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、34人（昨年度37人）が入学許可予定者となり、合計215人（昨年度215人）が入学許可予定者となった。

（表6参照）

表6 募集定員，出願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A(%)		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
令和6 年度	単位制 転編入	40	15	15	0.38	0	1	1	16	-24
	通信制	320	181	181	0.57	0	34	34	215	-105

令和5 年度	単位制 転編入	40	18	18	0.45	0	3	3	21	-19
	通信制	320	178	178	0.56	0	37	37	215	-105

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や自らの言葉で表現する記述式の設問などの工夫を凝らした。また、各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、基礎的な英語を聞くことや読むことを通して他者の考えや文章の内容を正しく理解する力や、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は、国語52.7点、数学41.2点、社会50.3点、理科44.6点、英語47.9点であった。

4 その他

新型コロナウイルス感染症、インフルエンザおよび月経随伴症状等による体調不良にかかる令和6年度滋賀県立高等学校入学者選抜に関するガイドラインにおける受検可否の判断を見直し、学力検査の追検査を実施し、受検機会を確保した。

令和6年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、言葉を正確に理解し適切に表現する基礎的な力をみるようにした。また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「文章量、文章の難易度、紙面の配置は適切であった」という意見が多くみられた。一方、「受検者に記述させる量が多かった」という意見も多くみられた。各設問については、□は、「論理的な思考力をみる良問であった」という意見がある一方、「理由を記述させる問が多く、出題の傾向に偏りがある」という意見もあった。□は、「幅広い内容で記述できるため受検者は取り組みやすいが、十分に考えられていない解答が多かった」という意見があった。□については、「様々な知識・技能がバランス良く出題されていた」といった意見がみられた。

3 解答の分析

全体を通して、基礎的・基本的な知識を問う問題は、概ね正答率は高かった。また本文内容に関する選択肢問題も比較的正答率が高かった。一方で、背景知識をもとに推論する問題や、記述により答える問題の正答率が低かった。誤答例の報告をみると、傍線部の文章内容や出題の意図を的確にとらえ、記述する部分を捨選択することができていない解答が多かったようである。

□は、動物の鏡像認知を確認するための実験について書かれた文章を素材にして、文脈を的確にとらえ内容を把握する力、文章構造を論理的に理解して適切な情報を得る力、文章の要旨を的確にとらえ適切にまとめる力をみる問題であった。

文章内容について選択肢で問う問題については正答率が高かったが、熟語の意味を文章内容と関連づけて理解する力や、文章の構造や表現にあらわれる筆者の意図をとらえてまとめる力を問う記述問題の正答率は低かった。筆者の意図を的確に把握しながら、条件にあわせて文章内容全体を適切にまとめる力を養うことができるような学習活動が求められる。

□は、俳句の季語を取り上げて、言葉と周囲の世界との結び付きがもたらす体験の質の向上について説明された文章や資料を素材にして、文章や話の展開に即して内容をとらえる力、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て内容を解釈する力、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して表現する力をみる問題であった。

内容を解釈して対比的に表現する力をみる問題や、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する問題の正答率が低かった。文章の構成や展開、表現に留意しながら文章を読む活動に取り組むことを通して、生徒の語彙力を向上させ、豊かな表現力を身に付けさせることが望まれる。

□は、文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力、口語文法に関する知識、文語のきまりや韻文の内容を適切にとらえる力をみる問題であった。

口語文法に関する問題と、韻文の内容について知識をもとに解釈する問題の正答率が低かった。学習の基盤となる知識および技能の充実を図るために、様々な種類の作品に触れることを通して、言語文化に親しむ活動の充実が望まれる。

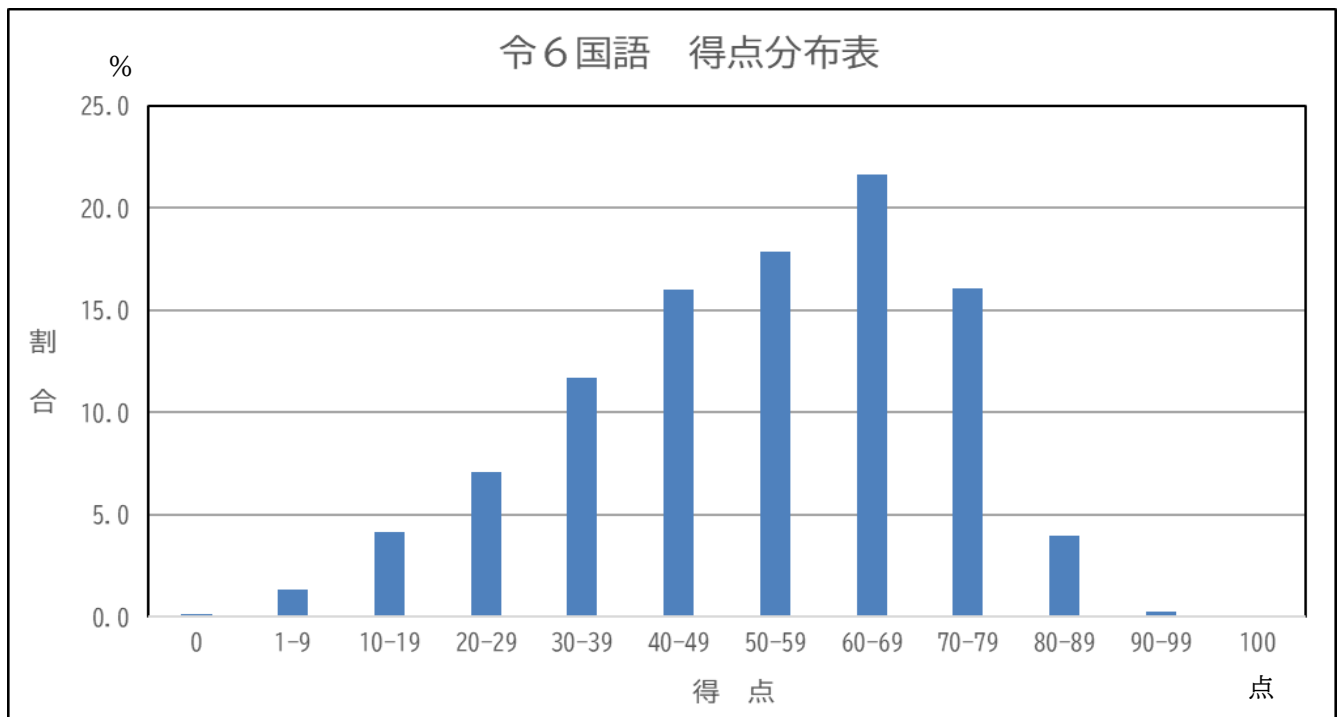
国 語

令和6年度

問題区分		正答率 (%)
一	1	46.1
	2	47.1
	3	93.5
	4	36.5
	5	8.3
二	1	25.5
	2	35.8
	3	20.8
	4	57.4
	5	24.7

問題区分		正答率 (%)	
三	1	①	73.6
		②	81.6
		③	78.4
		④	40.4
		⑤	79.0
	2	①	61.6
		②	91.0
		③	69.0
		④	65.2
		⑤	91.7
	3	①	52.9
		②	70.8
	4	①	43.0
		②	80.9
		③	38.0

年度	平均点	標準偏差
令和6年度(100点満点)	52.7	18.7



令和6年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。また、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「問い方に工夫があり、考えさせる問題が多かった」「全体として意味や意図をきちんと理解しながら問題が解けているかを問う良問であった」などという意見があった。各設問については、**①**は、「基礎的な力をみるために適切な問題であった」。**②**は、「1つの題材で様々な分野を問う良問であった」。**③**は、「単純な問題だが読み解く力が測れた」。**④**は、「図形に関する基本的な性質の理解およびそれを活用する力をみるのに適切な出題であった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、概ね理解できている。一方で、四則演算などの基礎的・基本的な知識および技能が身に付いていない受検生も見られた。また、題意を正確に読み取り関数やグラフを用いて数学的に表現・処理する問題や、図形の性質について自分の言葉で表現し説明する問題になると正答率が大幅に下がった。基礎的・基本的な知識および技能を身に付けるだけではなく、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動や、観察や実験などにより、数や図形の性質を見だし、見いだした性質を発展させるような活動を通して知識および技能を相互に関連付けて体系的に学ばせることにより、題意を正確に読み取り数学的に表現する力や、習得した知識を活用する思考力・判断力・表現力等を育成することが望まれる。

①では、中学校3年間で学ぶ基礎的・基本的な知識および技能を問う問題を幅広く出題した。基礎的・基本的な事項や概念については、正答率が高く、概ね理解できている。ただし、半球の体積、仮平均を用いて処理する問題については正答率が低かった。基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、処理する力の育成が望まれる。

②は、立体を題材にし、正多面体の性質や空間における平面と垂直な直線の性質について、数学的に表現する力を問う問題や、正八面体の表面積や正四面体を題材にして確率についての知識および技能を問う問題であった。立体や空間図形の性質について表現する問題の正答率が低く、図形の性質について暗記するだけではなく、論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

③は、日常の場面を題材にし、一次関数のグラフについての基礎的・基本的な知識および技能を問う問題や、条件を方程式やグラフを用いて数学的に表現し処理する力を問う問題であった。方程式やグラフを用い、見通しを持って処理する必要がある問題の正答率が低く、方程式やグラフの意味を理解し、適切に活用していく力を育成することが望まれる。

④は、円と、円外にある点を通る直線について、円の接線の作図の問題や、円周角の定理や三角形の相似の性質を利用した証明問題、三平方の定理等を利用して、円と正三角形でつくられる図形の面積について考察する問題など、円の性質をはじめとした図形の性質についての知識を活用して、数学的に処理する力を問う問題であった。複数の知識および技能を必要とする問題の正答率が低く、見通しを持って粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

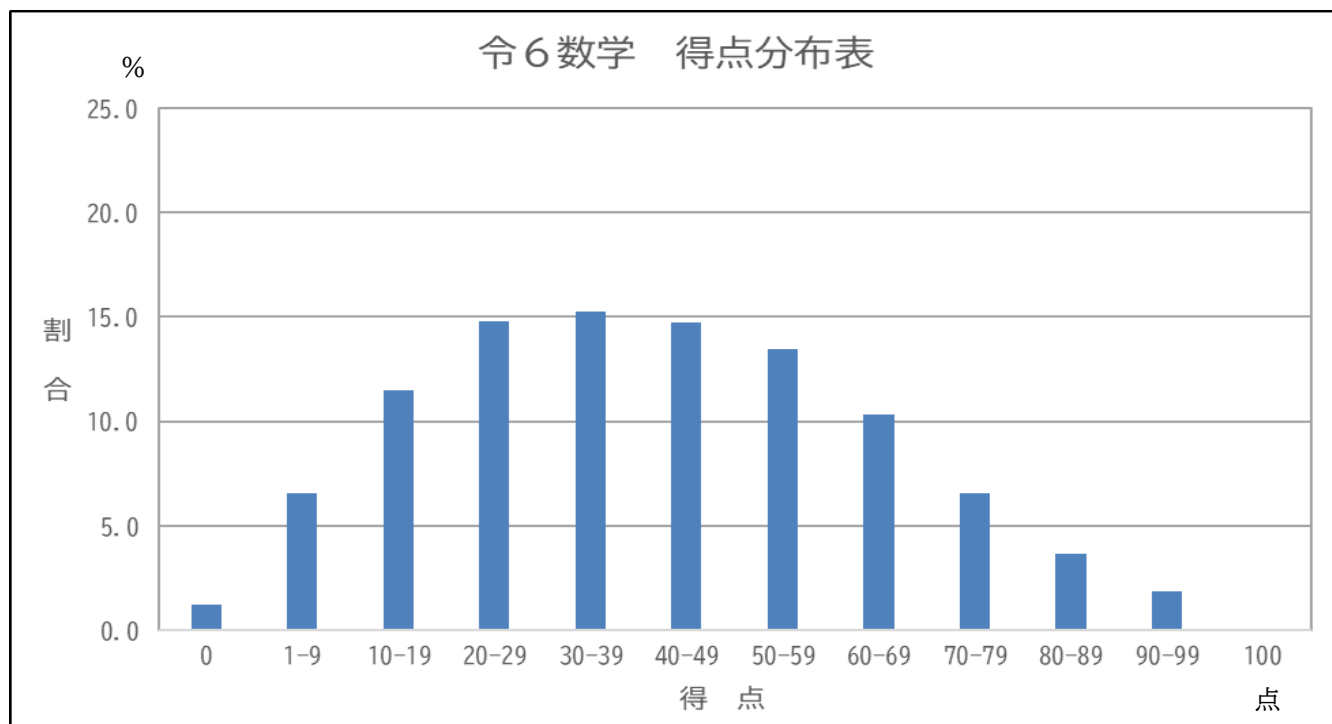
数 学

令和6年度

問題区分		正答率 (%)
1	(1)	89.3
	(2)	83.2
	(3)	64.1
	(4)	75.5
	(5)	55.3
	(6)	55.2
	(7)	42.3
	(8)	42.4
	(9)	57.8

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	29.3
	(2)	1.8
	(3)	33.3
	(4)	17.6
3	(1)	28.1
	(2) ①	34.6
	(2) ②	2.7
4	(1)	25.5
	(2)	10.4
	(3)	8.9

年度	平均点	標準偏差
令和6年度(100点満点)	41.2	22.7



令和6年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に定められた内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得をみるようにした。また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「『知識・技能』の設問と『思考・判断・表現』の設問が各分野でバランスよく出題されている」「地図や写真、グラフなどの資料が豊富に使用され、読解力や思考力を問う問題が多かった」などの意見があった。各設問については、**①**は、「大豆という1つのテーマから資料やグラフを用いて、地理的な見方・考え方を問うものであった」。**②**は、「滋賀県の文化財をテーマに、古代から近現代、日本史分野と世界史分野がバランスよく出題され、資料を読み解き、思考力・判断力を問うものであった」。**③**は、「地方自治をテーマに、滋賀県の財政・環境への取組を題材にして、資料を読み取り、適切に表現できる力を問うものであった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得は概ねできている。正答率が低い問題に共通するのは、知識や概念を組み合わせることで正答を導いたり、資料から適切な情報を取り出したりして、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分に身に付いていないと考えられる。図表やグラフから解答に必要な情報を正確に読み取り情報を取捨選択する力や、読み取った情報と蓄積した知識から判断し表現する力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識および技能を正確に身に付けたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成することが望まれる。

①は、グラフや地図などの資料をもとに、世界や日本の地域的特色についての理解をみるとともに、各地域の産業の特色について、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。グラフや地図の読み取りについての基本的な知識や技能をみる問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。一方で、資料から読み取れることと、地理的事象を結び付け、適切な形で表現する問題の正答率が低く、知識や資料から適切な情報を取り出し、文章にまとめる力を育成する必要がある。

②は、写真や略年表などの資料をもとに、古代から現代に至る各時代の政治や文化についての理解をみるとともに、近代国家の形成について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報を、自分の持っている知識と組み合わせることで答える問題で正答率が低かった。知識の習得とともに考察力、表現力を総合的に育成することが望まれる。

③は、図やグラフなどの資料をもとに、民主政治や地方自治についての理解をみるとともに、環境の保全の取組について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報を適切に文章にまとめる問題で正答率が低かった。日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心をもち、多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することが望まれる。

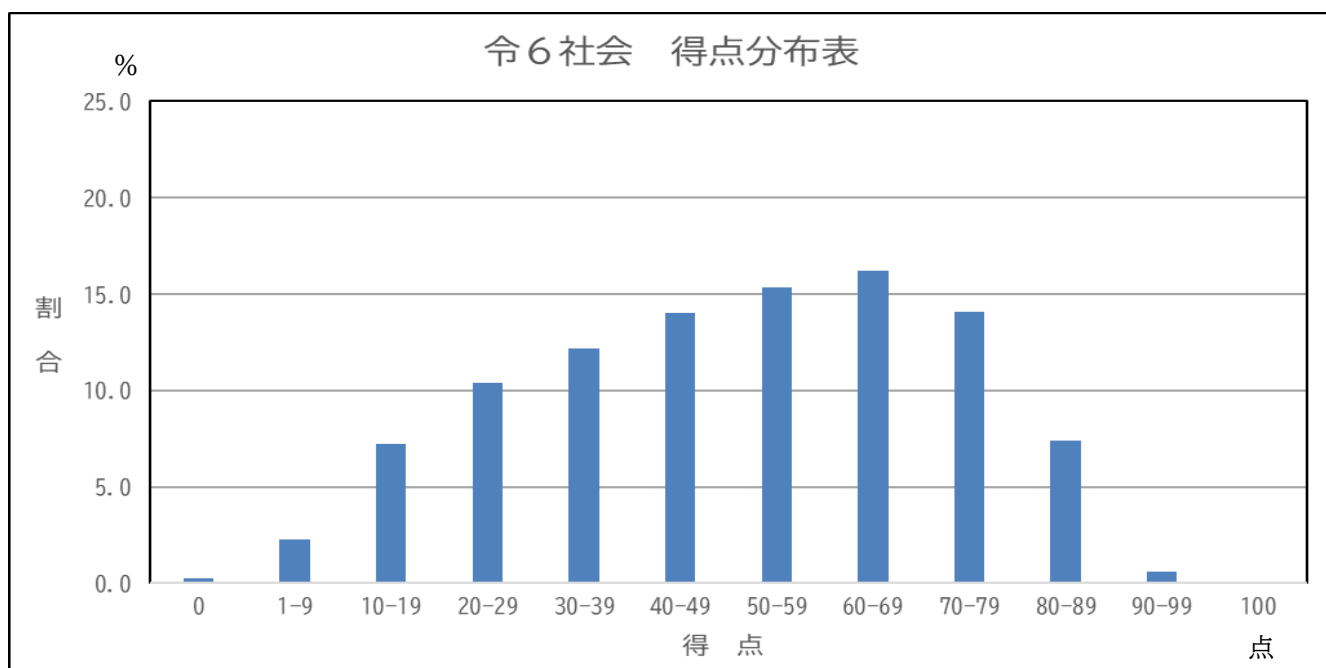
社 会

令和6年度

問題区分		正答率 (%)	
1	1	59.1	
	2	(1)	75.0
		(2)	21.5
	3	71.4	
	4	(1)	48.0
		(2)	62.5
	5	(1)	90.0
		(2)	5.6

問題区分		正答率 (%)	
2	1	71.1	
	2	46.7	
	3	60.7	
	4	29.3	
	5	31.9	
	6	(1)	30.5
		(2)	57.9
	7	25.9	
8	(1)	20.3	
	(2)	42.4	
3	1	(1)	49.5
		(2)	83.6
	2	(1)	57.7
		(2)	56.5
		(3)	79.8
	3	(1)	51.3
		(2)	13.0
		(3)	21.0

年度	平均点	標準偏差
令和6年度(100点満点)	50.3	21.6



令和6年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験や調べ学習を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な知識を問う問題から、思考力を問う問題まで幅広い出題である」「実験や観察から得られたデータから考察して解答させる問題であり、身の回りの事物・現象を文章で表現する力が問われている」などの意見があった。各設問については、「天気図や気象データの中から必要な情報を読み取ることができるかを問う出題であった」「実際の実験操作の手順の意味や、データ処理の基になる原理の理解度が結果に表れた」などの意見があった。

3 解答の分析

生物、地学、物理、化学の各分野において、基本的な知識や理解を問う問題や、自然の仕組みやはたらきについて理解を問う問題については正答率が高く、科学に関する基本的概念は定着していると考えられる。

一方、実験や観察の結果を科学的に考察し、それを論理的に説明することを求める問題については正答率が低かった。自然の事物や現象について、比較することで問題を見いだしたり、既習の内容などに関連付けて課題の解決につなげたり、科学的な根拠を踏まえ論理的に表現できるようにすることが必要である。

①は、滋賀県に生息する動物を比較する調べ学習を通して、動物の分類や進化についての理解をみる問題であった。動物の体の基本的なつくりや、動物の分類についての基本的な知識をみる問題については正答率が高かった。一方、無脊椎動物の体のつくりや、脊椎動物の進化について説明する問題では正答率が低かった。生物や進化について理解し、特徴を見いだして表現する力の育成が望まれる。

②は、台風についての調べ学習を通して、気象についての理解をみる問題であった。等圧線の読み方や等圧線と風の関係についての基本的な知識をみる問題については正答率がやや高かった。一方、天気図記号をかく問題や、調べ学習の結果を考察し説明する問題では正答率が低かった。日本の天気の特徴を日本付近の大気の動きと関連付けて理解し、表現する力の育成が望まれる。

③は、ばねを伸ばす実験を行い、力の働きについての理解をみる問題であった。力の大きさとばねの伸びとの関係についての基本的な問題は正答率が高かった。一方、実験結果から考察し説明する問題では正答率が低かった。科学的に探究する活動を通して、実験結果を分析して解釈し、規則性を見いだしたり課題を解決したりする力の育成が望まれる。

④は、金属の還元の実験を通して、化学変化の規則性についての理解をみる問題であった。基本的な知識をみる問題については正答率がやや高かった。一方、質量保存の法則を原子の組み合わせと関連付けて説明する問題では正答率が低かった。化学変化を原子や分子と関連付けて解釈し、物質の変化やその量的な関係を見いだして表現する力の育成が望まれる。

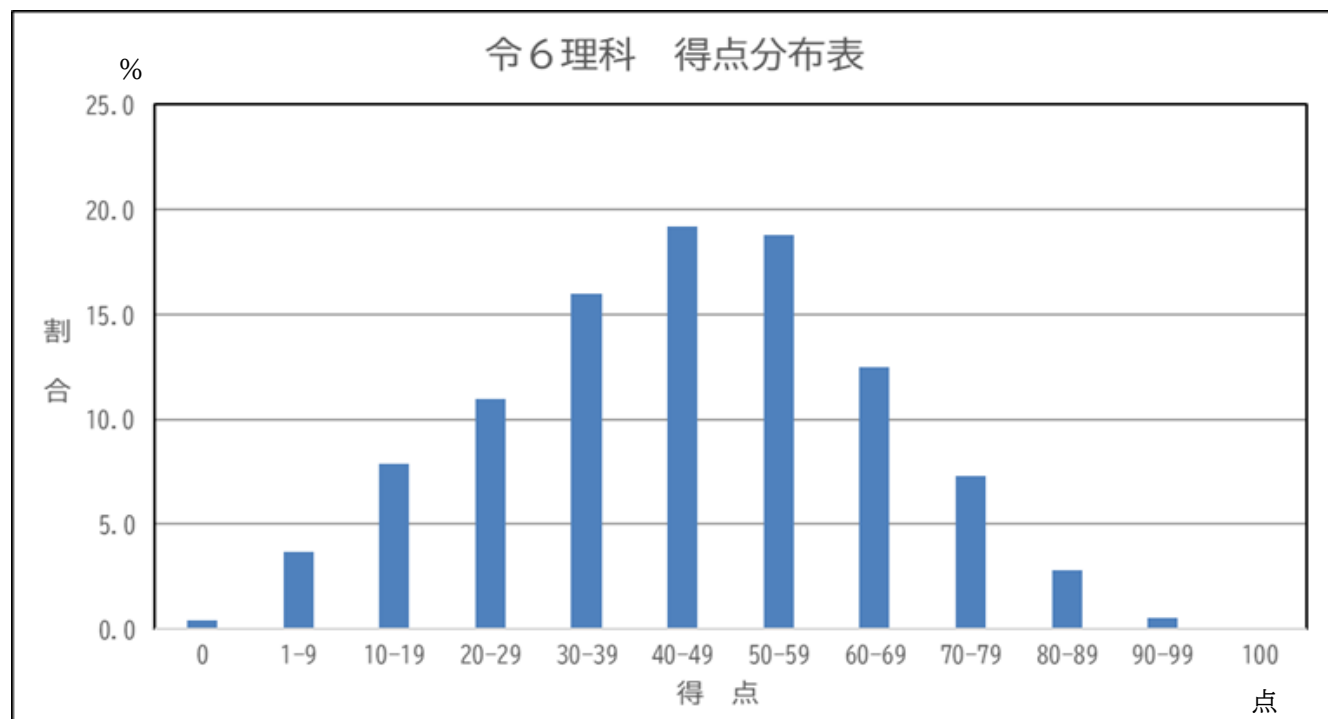
理 科

令和6年度

問題区分		正答率 (%)
①	1	76.4
	2	77.2
	3	21.5
	4	66.7
	5	15.4
②	1	59.8
	2	57.8
	3	32.0
	4	17.7
	5	11.7

問題区分		正答率 (%)	
③	1	82.2	
	2	78.9	
	3	19.5	
	4	20.6	
	5	5.3	
④	1	43.4	
	2	55.1	
	3	16.7	
	4	20.8	
	5	(1)	40.6
		(2)	20.8

年度	平均点	標準偏差
令和6年度(100点満点)	44.6	19.7



令和6年度 英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したりする力をみるようにした。また、英語を聞くことや読むことを通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら、考えなどを形成する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「英語の知識を問う問題と思考力、表現力を問う問題がバランスよく出題されていた」との意見があった。各設問については、「チラシの読み取りやスピーチ原稿、コメントなど多様な種類の文章を読み、答えさせることで生徒の読解力を評価する問題だった」「やり取りを意識したスピーチや会話文などでは、コミュニケーションの状況や場面を意識した問題であり、中学校での授業で培った力を問う問題であった」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、日常的な話題に関する英文を聞いたり、読んだりして必要な情報をつかむ力や知識を問う問題の正答率は高かった。聞いたり、読んだりすることについて、学習した語彙や表現等に関する知識を活用できる基礎的な力が身に付いており、中学校の授業における技能面での指導の成果が表れている。一方で、読んだことについて、自分の考えを表現する問題は、正答率が低かった。情報を整理しながら考えを形成し、英語で表現したり伝え合ったりしながら、思考力、判断力、表現力等を高めるような学習を継続的に行うことが望まれる。

①の聞き取り問題では、日常生活や身近な事柄について、短い英文の内容を正確に聞き取る問題や話し手が伝える内容の概要を捉える問題の正答率が高かった。一方で、聞きとった内容を基に表のデータを読み取る問題や複数の情報を整理しながら適切な答えを選択する問題の正答率は低かった。発話される内容を整理しながら聞き、必要な情報を抜き出すような言語活動の充実が望まれる。

②は、国際交流イベントのチラシ、イベントに参加する生徒のスピーチ原稿、スピーチ後の参加者同士のやり取りなど多様な種類の英文を読む問題であった。まとまりのある英文を読み、概要を把握する問題や語の並び替え問題の正答率が高かった。一方で、文意に即して適切な語句を補充する問題の正答率は低かった。短い英語で適切に表現したり、話の展開や段落ごとの関係性を意識しながら英文を読んだりする活動の充実が望まれる。

③は、琵琶湖に生育するヨシを題材とした英文を読み、話のあらすじを適切に捉えたり、読み取った内容を基に、簡単な語句や表現を用いて表現したりする力を問う問題であった。前後の文脈の流れを意識し、正しい英文を選択する問題の正答率が高かった。一方で、読み取った複数の情報を整理し、英語で書く問題の正答率は低かった。読み取った内容を数文でまとめたり、内容についての意見やその理由などを話したり、書いたりする言語活動の充実が望まれる。

④は、映画を家で観ることが好きか、映画館で観ることが好きかという問いかけに対して、自分の考えとその理由を書く問題であった。正答率は低く、日ごろから身の回りの事柄や自分の考え、気持ち、その理由などを簡単な語句や文を用いて表現する言語活動が望まれる。

問題区分		正答率 (%)	
①	その1	1	87.1
		2	49.5
		3	46.1
		4	43.5
	その2	52.7	
	その3	1	41.9
		2	45.2
		3	72.1
		4	47.0
	②	1	(1)
(2)			39.5
2		42.7	
3		43.6	
4		17.2	
5		63.9	
6		12.1	
7		52.9	

問題区分		正答率 (%)
③	1	43.5
	2	51.3
	3	46.5
	4	37.5
	5	53.5
	6	45.1
	7	29.4
	8	32.7
④		26.8

年度	平均点	標準偏差
令和6年度(100点満点)	47.9	24.7

